

微細粒

MICRO マイクロアストロン
ASTRON

UF

緩効性

マイクロアストロン 10-4-15+Mg2 の上手な使い方

保証成分(%)							緩効性 窒素割合
窒素			リン酸		カリ	苦土	
全窒素	内アンモニア態	内緩効性	<溶性	内水溶性	水溶性	<溶性	40%
10	6	4	4	1	15	2	

(粒径 0.5~1.0mm; 約 70%、嵩比重約 0.9~1.0)

- 嵩比重が高く、微粉末が少ないため、散布時のドリフトが少なく正確かつ均一散布が行えます。
- 葉幅が狭く非常に高密度なニューベントやウルトラドワーフなど、刈高 3mm 内外の超低刈りされたサーフェスでもしっかりと芝目に入り込みます。
- 散布後一定期間肥効が持続しますので、床土のベース肥料としてお使い頂くと、省力化に繋がります。

◎ パッティンググリーン参考散布量(g/m²)

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間合計
ベント グラス			20~30		15~20				15~20		15		65~85g/m ² 6.5~8.5g・N/m ²
	← 液肥 →												適宜 約 5.0 g・N/m ²
ウルトラ ドワーフ			20	20	30	30	20	15					135 g/m ² 13.5g・N/m ²
	← 液肥 →												適宜 約 13.0 g・N/m ²

- * 施肥計画は土壌分析結果、芝生の生育量を基に加減してください。
- * 散布する場所の面積をしっかりと把握し、散布量を事前に計量してください。
- * 液肥施用は成分量補完の目的のほか夏場の少量多回数施肥のために行ってください。

◎ 代表的な散布機の種類:



サイクロン



ヘリカルコーン



手動式散粒機



動力式散粒機

◎ 各機種共通の注意点:

- 散布幅の 1 割程度のオーバーラップを取って散布ムラを低減するようにします。
- より均一な散布のためには縦横 2 回撒きをお勧めします。
- 強風時はドリフトしますので散布を見合わせてください。



◎ 散布ゲージ・通常歩行スピードでの散布幅・特徴/注意点

機種	推奨散布ゲージ	散布幅	特徴/注意点
サイクロン	10g/m ² : 2 20g/m ² : 3	3.0m	広く普及しており、一般的。 タイヤの接地圧が高い。
ヘリカルコーン	10g/m ² : I 20g/m ² : K	7.0m	通常のサイクロンより均一散布が可能。 タイヤの接地圧が低く、散布幅も広い。
手動式 散粒機	適宜調整	約 8m	散布幅は広く少量散布向き。70 回転/分を維持することが難しく、 開閉ゲージや左右の偏り調整等は熟練が必要。
動力式 散粒機	5	6m*	グリーン外のアプローチから散布可能。 * 仰角 45 度で 4~10m 先に飛びますが、手前 4m の部分に落ちません。 背負い式・エンジン付きで重い。均一にムラ無く散布するには熟練が必要。

◎ 葉焼け回避のため、散布前に必ずお読みください:

- 散布直後に粒の崩壊が確認できるまで必ず散水を行ってください(推奨 5 分以上: 下の写真例参照)。
- 散布後の散水は早めに必ず行ってください。散布後長時間放置すると葉焼けを起こす原因となります。

散布量 (g/m²) とスプリンクラー散水時間(分)の目安

10g/m ²	15g/m ²	20g/m ²	30g/m ²
3~5 分	5~7 分	7~10 分	10~15 分

- 夏季高温時は気温が下がってから散布を行うようにしてください。
- 朝露が残っている場合は露が消えるまで控える、軽く散水して露を落とす、露払いを行うなどの対策をして散布してください(この場合も後散水は行うようにしてください)。
- グリーン面に散布する場合、アプローチが濡れていないかもご確認ください。
散布機のタイヤにダマになって付着したり、散布者の靴底に付着して葉焼けを起こす場合があります。



このように均一に散布してください

崩壊の状況

